

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 069	提案機関名 畜産技術センター 普及指導課
要望問題名 獣害に強い飼料作物の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 近年、飼料用トウモロコシがイノシシ等の被害により作付けができない山付きの畑が増加傾向にある。そこで、特にイノシシ被害を軽減できる飼料作物について検討願いたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名 畜産技術センター	担当部所 企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 飼料用ダイズとイタリアンライグラスの二毛作体系による飼料生産技術の開発(平成30～32年度)	
対応の内容等 イノシシによる被害は、掘り起こし被害と採食被害に区分できます。飼料用トウモロコシ以外にも、ソルガムやイタリアンライグラス等の寒地型牧草でも深刻な被害が発生することが報告されています。これら、被害の発生する地域では、被害を受けやすい作物を栽培する場合には侵入防止柵の設置が必要です。現地での対応をお願いします。 一方、ギニアグラス等の暖地型牧草やライムギは、イノシシによる食害を受けにくいと報告されています。侵入防止柵の設置が難しい場合は、これら食害を受けにくい草種を選択してください。 イノシシの牧草被害対策については、次のパンフレットに詳しく記載されていますので参考にしてください。「イノシシの牧草被害対策Q&A(2016)」(農研機構 西日本農業研究センター発行、 http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/pub2016_or_later/laboratory/warc/063943.html からダウンロードできます) また、当所では平成30年から「飼料用ダイズとイタリアンライグラスの二毛作体系による飼料生産技術の開発」に取り組んでいます。飼料用ダイズは、主として茎葉を利用するため、ダイズ種子が未熟な時期に収穫することが可能です。食用ダイズのイノシシによる食害は、ダイズの成熟期に多く発生していることから、未熟な時期に収穫する飼料用ダイズはイノシシによる食害を軽減できる可能性があります。飼料用ダイズのイノシシによる食害の軽減効果については、現地試験を実施して検討する予定です。	
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考	